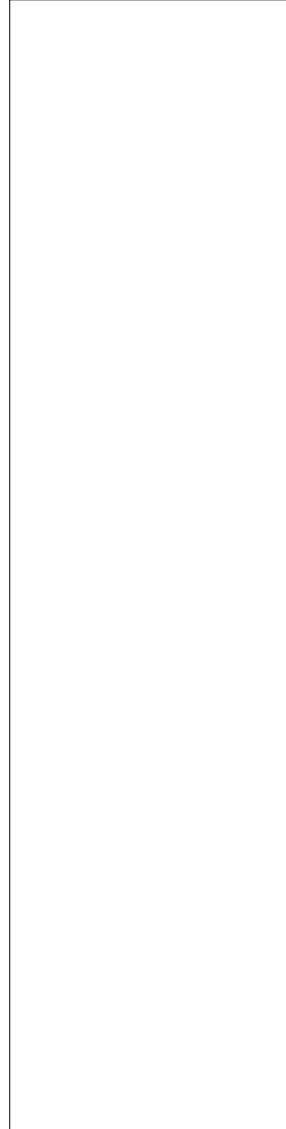
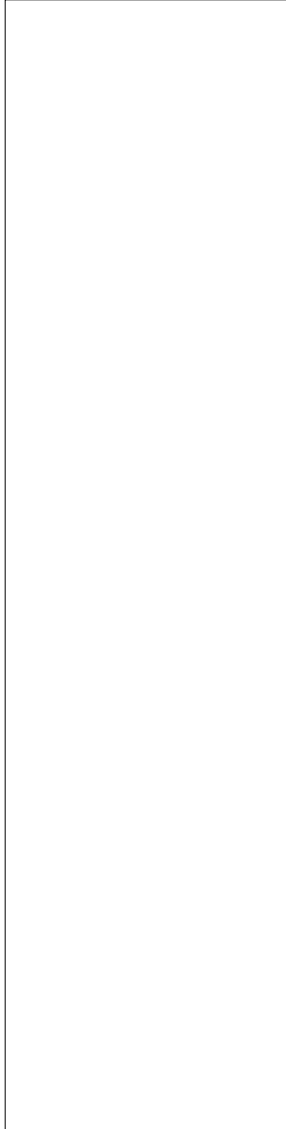


問二 傍線部(ロ)はどのようなことを言おうとしているのか、「ここ」が何を指しているのかを明らかにしつつ説明せよ。



問三 傍線部(ハ)について、黄金の壺をうめた土地の話と「至上なる恋愛」の伝説とは、何がどうそっくりなのか、説明せよ。



第一講

次の文章は『大鏡』の一節である。藤原朝成（九一七―九七四）は、任官争いのことから、藤原伊尹（九二四―九七二）に恨みをいだいていたが、死後も悪霊となって、伊尹の子孫たちに長くたたったという。文中の「頭の弁」は、伊尹の孫にあたる藤原行成（九七二―一〇二七）をさしている。これを読んで、後の設問に答えよ。

殿の御夢に、南殿なでんの御うしろ、必ず人の参るに通る所よな、そこに人のたちたるを、たれぞと見れど、顔は戸のかみに隠れたればよくも見えず。怪しくて、「誰ぞ誰ぞ」とあまたたび問はれて「朝成に侍り」といらふるに、夢のうちにもいと恐ろしけれど、念じて「などかくては立ち給ひたる」と問ひ給ひければ、「頭の弁べんの参らるるを待ち侍るなり」といふと見給ひて、おどろきて、「けふは公事ある日なればとく参るらん。不便なるわざかな」とて、「⁽¹⁾夢に見え給へることあり。けふは御病申しなどもして、物忌かたくして、何か参り給ふ。こまかにはみづから」と書きて、急ぎ奉り給へど、ちがひて、いととく参り給ひにけり。まもりのこはくやおはしけむ、⁽²⁾例のやうにはあらで、北の陣より、藤壺、後涼殿ごりやうだんのはざまより通りて、殿上に参り給へるに、「こはいかに。御消息奉りつるは御覧せざりつるか。かかる夢をなむ見侍りつる。とく出でさせ給ひね」と聞えさせ給ひければ、手をはたと打ちて、⁽³⁾いかにぞと、こまかにも問ひ申させ給はず、また二つ物ものたまはで出で給ひにけり。さてぞ御祈などし給ひて、しばしは内へも参り給はざ

〔出典〕
○大鏡・卷三・伊尹

問一 傍線部(1)の「夢に見え給へること」(ア)は、ある本では「夢に見給へつること」(イ)となっている。(ア)と(イ)をそれぞれ現代語訳せよ。なお(ア)と(イ)では敬語法の上からいつてどのよう
に違うか、説明せよ。

(ア)

現代語訳
説明

(イ)

現代語訳
説明

問二 傍線部(2)「例のやうにはあらで」は、(ア)だが、(イ)どのようにしたこと指しているのか、
説明せよ。

(ア)

--

(イ)

--

【練習問題】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。(設問の都合で返り点・送り仮名を省略したところがある。)

商之時、天下嘗大乱矣。在位貪毒禍敗、皆非其人。①
及文王之起、而天下之才嘗少矣。当是時、文王能陶②
治天下之士、而使③之皆有士君子之才、然後隨其才之
所有而官使之。詩曰、「豈弟君子、遐不作人。」此之謂
也。及其成也、微賤兕置之人、猶莫不好德。兕置之
詩是也。又況于在位之人乎。⑤

(王安石「上仁宗皇帝言事書」による)

(注) ○商——殷王朝。 ○貪毒——欲張りで人をいたため苦しめる。

○禍敗——災いを被つたり失敗したりする。 ○文王——殷王朝を滅ぼし、周王朝を建てた武王の父。

○陶冶——人を導き育成する。 ○士君子之才——立派な役人としての才能。 ○詩——書名。『詩経』。

問四 傍線部③「随其才之所有而官使之」について、

- (1) 「其の才の有する所に随ひて之を官使す」と読むが、この読み方に従って解答欄の原文に返り点をつけよ。(送り仮名は不要。)

☆解答の着眼点……置き字と、熟語に返って読むときの返り点に気をつけよう。

随其才之所有而官使之。

- (2) どういうことか、簡潔に説明せよ。

↑注意したい語……「所」

☆解答の着眼点……文末の「之」の指示内容をよく考えてみよう。

問五 傍線部④「莫不好徳」を現代語訳せよ。

↑注意したい語……「莫」「不」「好」

☆解答の着眼点……二重否定の句形に注意しよう。